

祭と衣装

-会津田島祇園祭を基にした衣装デザイン-

a2200403 市村祐子

【制作意図】

着飾るもの、日々を楽しむもの、身体を覆い保護するなど幅広い用途を持ち、自分自身は勿論、周りにも影響を及ぼす衣服。ちょっとした躍動感を付けることで、生活に活力と潤いが生まれてくるのではないだろうか。

そこで古来、宗教上人々と密接な関係がある『祭り』。この熱気のあるイメージはデザインソースになるのでは、と着目した。日本の祭りの代表格である祇園祭、祇園祭といえば京都というイメージが強い。しかし福島県内の国重要無形文化財である田島祇園祭を知り、私はここでしか学べない歴史ある祭りで躍動感を表現したいと考えた。衣服というカタチで祭りを表現し、ファッションをもっと楽しみ、自己表現できるようにデザイン、制作を進める。

【制作課程】

テーマ設定
情報収集
祇園祭訪問
デザイン展開
原型作成
材料購入
裁断
仮縫い・補正
本縫い
着装
完成

【コンセプト】

スタイル1: 行器シルエットより
七行器・赤飯行器のシルエットをヒントにデザイン。ケーブで行器の器部分、手足は行器の足をイメージし作成。行器自身にも赤のアクセントが効いていたので、黒地に赤のパイピングを入れる事でアクセントを付けた。

スタイル2: 屋台より
ケーブは屋根、腹部は垂れ幕、腕は柱、スカートは車輪を屋台の部位をそのままイメージできるようにデザインした。スカートは上から見ると正円に見えるドレススカートに用いられる型紙で作成した。

スタイル3: 衣装イメージより
ワンピースの襟元を角にすること、斜めに切り替えること、和柄の生地を使うこと、そしてアウターのフードで角隠しをイメージした事で、七行器行列の花嫁衣裳を表現。また太々神楽の衣装から『透』をヒントにワンピースが少し透けて見えるような生地を選択した。

【考察・感想】

田島の人々はこの3日間の祇園祭のために丸1年掛けて祭りの準備をする。その3日間の躍動感を3着で表すのはとても難しかったが実際にイメージを形として表現する事が特に困難だった。しかし、型紙の補正から、素材、装飾品に至るまで自分のイメージに極力近づけようという思いを作品に表す事が出来たと思う。

大量生産によって自分で衣服を作っているという事が減少していく中で、自分でデザインして作るという経験は何よりの財産になったのではないかと思う。

最後に、協力して下さった懸田先生や田島の方々に感謝致します。

